

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

鼻副鼻腔炎診療の手引き

日本鼻科学会「鼻副鼻腔炎診療の手引き作成委員会」、一般社団法人日本鼻科学会、一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

日本鼻科学会会誌 63 巻, 1 号 2024 年発行

Minds 掲載 無

■1 辛夷清肺湯、葛根湯加川キュウ辛夷、荊芥連翹湯

疾患:

慢性鼻副鼻腔炎

有効性に関する記載ないしその要約:

『第 7 章治療』の『I. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『慢性鼻副鼻腔炎に対する漢方薬として、辛夷清肺湯(シンイセイハイトゥ)、葛根湯加川芎辛夷(カクコントウカセンキュウシンイ)、荊芥連翹湯(ケイガイレンギョウトウ)などが用いられる。ただし、漢方薬の効果について無作為対照試験はなく、有効性を示すエビデンスは乏しい』